

[成果情報名] 水稲品種「にこまる」の「ヒノヒカリ」と比較した育苗時の生育特性

[要約] 「にこまる」は「ヒノヒカリ」に比べ、発芽勢および出芽勢が高く、苗も伸びやすい。「にこまる」の硬化開始時の苗長は2.5cmが最適である。

[キーワード] イネ、にこまる、育苗

[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・作物科

[代表連絡先] 電話 0957-26-3330、電子メール j-koga@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 農産

[分類] 指導

[背景・ねらい]

長崎県において、「にこまる」は「ヒノヒカリ」との作期分散や、温暖化による玄米品質の低下が少ない品種として普及が進んでいる。しかし、育苗時の苗の徒長が栽培上の問題の一つとなっている。

そこで一般的な20日間程度の育苗期間について「にこまる」の生育特性を明らかにし、健苗育苗のための基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 「にこまる」は播種直前の発芽勢および育苗時の出芽勢が高い（図1、2）。「にこまる」の苗は同一条件で育苗した「ヒノヒカリ」に比べ伸長し、第1葉鞘長、第2葉身長が長く、苗の充実度も低い（表1）。
2. 「にこまる」は出芽・緑化のための被覆・加温期間が長くなるほど硬化開始時の苗の伸長程度は「ヒノヒカリ」より大きくなり、移植前の苗はさらに伸長する（表1、図3）。「にこまる」の健苗育苗のため、硬化開始時の苗長は2.5cmが最適である。

[成果の活用面・留意点]

1. 伸長した苗でも根張りは同等で苗崩れしないが、第1葉鞘長が長く軟弱なため茎折するなどして欠株が生じる。
2. 試験は2品種とも前年産種子を播種し、出芽温度28℃で3日間、緑化温度を昼間25℃、夜17℃に設定した段積加温育苗と、育苗シートで出芽から緑化まで被覆し、硬化開始時に育苗シートを除去する平床育苗とで行った。

[具体的データ]

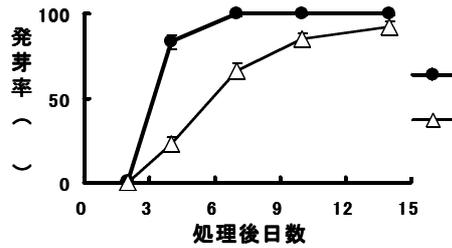


図1 発芽率の比較(2006年)

注1)発芽試験は2006年5月22日シャーレに100粒置床、処理温度25℃、4反復
2)種子は2005年場内産、比重選1.10

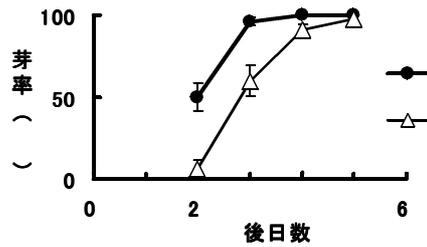


図2 出芽率の比較(2006年)

注1)出芽試験は24時間種子消毒、3日間浸種後2006年6月9日育苗箱を10区に仕切り、100粒播種、5反復 28℃加温育苗
2)種子は2005年場内産、比重選1.10

表1 育苗法および硬化時期と苗の生育(2006年)

品種名	硬化開始時		移植前				
	播種後日数(日)	苗長(cm)	苗長(cm)	葉齢(L)	第1葉鞘長(cm)	第2葉身長(cm)	充実度(乾物/苗長)
段積加温育苗	3	2.5	17.7	2.1	4.8	10.4	0.66
	4	4.7	17.8	2.2	5.3	10.4	0.60
	5	9.7	22.4	2.1	7.5	14.0	0.54
育苗シート	3	2.2	12.1	2.6	3.2	6.4	0.84
	4	4.0	12.1	2.5	3.6	6.9	0.83
	5	6.5	12.8	2.4	3.9	7.6	0.81
ト	4	2.5	15.0	2.0	4.6	9.1	0.64
	5	5.9	17.4	2.0	5.9	10.5	0.65
	6	8.6	19.3	2.1	5.9	11.7	0.57
ヒノヒカリ	4	2.5	12.1	2.7	3.2	6.5	0.78
	5	4.5	15.0	2.4	4.5	9.0	0.72
	6	5.8	14.3	2.5	4.4	8.5	0.71

注1)播種：2006年6月9日、乾籾140g/箱

2)種子は2005年場内産、比重選1.10

3)段積加温育苗は出芽28℃3日、緑化昼間25℃夜17℃に設定

4)育苗シート区は播種後育苗箱を平置きし被覆、硬化開始時に育苗シートを除去

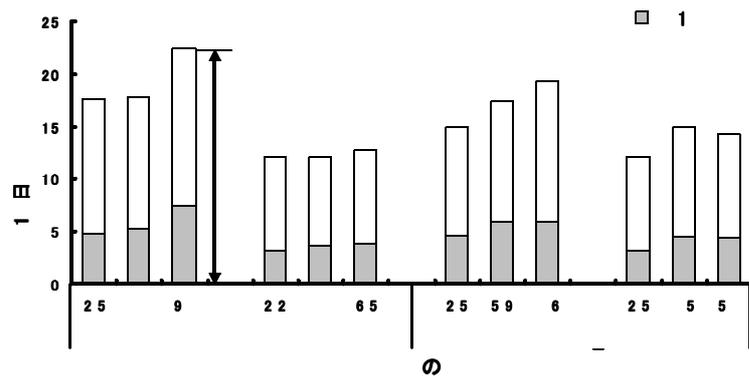


図3 硬化開始時の苗長と移植時の苗長および第1葉鞘長

[その他]

研究課題名：稲・麦・大豆奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：2006年度

研究担当者：古賀潤弥